



日本では極めて珍しいルーフ CTR3。残念ながら右ハンドルだ。



ルマン 24 時間レース優勝車、トヨタ TS050 ハイブリッド。

胸に、ぎゅんとくる “東京 モーターフェス2018”

予想を大きく上回る来場者で賑わった屋外イベント

本誌レポーター：岡 雅夫



トヨタ・ヤリス WRC。今年 3 連勝しているマシンである。

本年も恒例となった東京モーターフェスが 2018 年 10 月 6 日から 8 日の 3 日間、東京お台場地区で開催された。(一社)日本自動車工業会が主催し東京モーターショーの非開催年にも車にもっと親しんでもらおうと行われるが、今年は規模も拡大してエンターテインメント満載の楽しいイベントとなった。テーマは「胸に、ぎゅんとくる。」で今回は多少台風による風の影響はあったものの3日間好天に恵まれ、屋外イベントとしては大成功である。3 日間の来場者数は予想を大きく上回る 21.8 万人となり盛況に終了した。

筆者は中日の 10 月 7 日昼頃に視察させていただいたが、日曜日にもかかわらず、りんかい線はラッ

シュアワーのように混みあい大井町では乗るのを諦めて次の電車を待つ外国人の乗客も見られるほどだった。東京テレポート駅を降りるとホームから出口に向かうエスカレーターも長い行列ができ、特に急がないので待っていたら列が終わるまで 3 分も待たされた。改札を出て眩しい陽射しの中第 1 会場に向かう通路にはハイパフォーマンス車展示があり、ポルシェ、ロータス、マセラティなどが置かれていた。この中でポルシェは普通のモデルではなく、ドイツのチューニングメーカーであるルーフ社のスペシャルモデル 3 台が並べられた。一見すると旧型のポルシェが並んでいるように見えるが、中身は 750ps の CTR とい

う別格のモデルだったり、さらにすごいのは国内では筆者も初めて見た CTR3 という 8 千万円級の特別生産モデルがあったことだ。筆者は 6 年前にルーフ本社工場を訪れてこの車の生産現場をじっくり見せてもらったが、ポルシェ 911 をベースに手作りして入念に組み上げられる姿を見て感動したことを覚えている。会場に入る前に少し時間をとってしまいようやくメインの(といっても第 2 会場も見どころ満載なのでどちらがメインと決めつけられないほどだが)第 1 会場に着いてメインステージ前でのアトラクション走行の迫力を楽しみ、昭和から平成の名車展示を懐かしみながら試乗会場を覗く。ホンダ NSX などの普段乗れない車



日野プロフィア・ハイブリッド。一見ハイブリッドには見えない。



いすゞのミドリムシバイオ燃料バス。世界初の DeuSEL 燃料を使う。

もあるが、一般来場者も普段乗ったことのない大型トラックも3台試乗車として用意されていた。ふそう、UDのカーゴといすゞのダンプである。公道試乗なので運転は出来ないが、第2会場に用意されたドライビングテクニック体験コースで大型トラックの運転ができるのもっと感動が増えると思うのだが。

さて隣の第2会場には様々な体験コーナーが設けられ待ち行列も絶えないが、ドライビングテクニック体験コースの脇にはWECスポーツカーレースのルマン24時間優勝車トヨタTS050が並べてあった。その手前にはWRCで今年3連勝したトヨタYARISもあった。どちらも想像より大きな車体のため迫力満点である。

第2会場にははたらくクルマ展示があり、大型4社が展示を行ったが、日野は3台のうち1台は大型車プロフィアでグリルが黒く塗られておりステッカーもないのであまり目立たないようにしていたが、説明パネルを見ると来夏発売のハイブリッドであった。実車もリヤフレームをのぞき込むとしっかりリチウムイオン

電池が装備されていたので間違いない。いすゞはミドリムシバイオ燃料路線バスを展示していた。実際いすゞの工場と駅を結ぶ社員などの輸送で稼働しているという。UDトラックスは中身がこの秋発売の新8リッターエンジン車かと期待したが、従来型の11リッター車であったのはややがっかりだ。ふそうは大型観光バスを並べ多くの来場者が乗り込んでいた。日野は他にもドライビングテクニック体験会場で最新大型観光バスの運転手身体トラブルによる事故防止システムの体験試乗を行っていた。ドライバーにもしもの異常があった時に素早く車を停止させる仕組みである。また日曜日には狭い第1会場ステージ前コースでWRCヤリスが自工会会長並びにトヨタ自動車社長の豊田章男氏のドライブでタイヤスモークをあげながら全開走行するという演出まで行っていた。初日にはソフトバンクの孫社長も会場に足を運んだり、豊田会長とマツコ・デラックスのトークショーも行われるなど広報的にも盛り上がるイベントとなった。

開催場所が同じことから「モータースポーツジャパ



UDトラックス・クオン。現行のGH11エンジン車。



ふそうの大型観光バス。



日野のドライバーエマージェンシーストップ実演テスト車。

ン」とイメージがダブってしまうことがややもすると心配されたが、今回はとにかくこれでもかという程盛りだくさんの企画と新型車のみならず懐かしのクルマ展示で充実したクルマイベントとして次回も見に行きたいと思わせる内容となった。会期は3日間と短い季節外れの暑さにも見舞われ、内容の幅広さを考えると運営もかなり大変だったろうと想像されるが、多くのお客様の来場で苦勞も勞われたと思われる。



東京テレポート駅前に置かれたランボルギーニ・アヴェンタドール。



ホンダのアシモ型幼児用遊具。女性が開けている隙間から乗り込む。



会場内に置かれた大型ジェネレーターも大活躍である。



こんな高級スポーツカーも痛車になってしまう。アウディ R8。



働くくるまコーナーに置かれた警視庁のフェアレディZ。NISMO仕様である。



豊田彰男会長とマツコ・デラックスのトークショー、そしてゲストの孫社長。